

水と緑、風薫るまち 緑丘学区

MIDORIGAOKA



緑丘小5年生/平成27年度
小林 天太くん(緑丘一丁目)

大人になったら、大工になりたい。未来の緑丘は、自分の建てた家がある街にしたいです。



緑丘小5年生/平成27年度
稲森 日菜さん(美合町・平地中)

交通安全の輪を広げ、お年寄りも子どもも、みんな笑顔でいられる緑丘にしたいです。

未来の緑丘へ、届け！

希望のメッセージ



緑丘小6年生/平成27年度
野瀬 康平くん(緑丘三丁目)

古き良き伝統を残しつつ、新たな物事を取り入れて、世界に発信していく街。そんな緑丘にしたい。



緑丘小6年生/平成27年度
院南 愛さん(美合町・平地東)

今ある伝統を大切に受け継ぎ、自然豊かな川を中心に新しい文化が生まれる素敵な街になってほしい。



編集後記

市制100周年記念事業のひとつとして、この「岡崎まちものがたり」の編集に携わることとなりました。年度当初は霧の中を手探りで進むようでした。回を重ねるごとに編集委員の意見もまとまり、だんだん道筋が見えて完成を迎えることができました。学区としては新しいものの、古墳、由緒ある寺、大工場、各種の学校と誇るものがあることに気付くことができました。編集委員として活動できたことを喜びに思いました。

この学区は、区画整理事業やマンションの建設により、他地区から多くの住民を迎え発展してきました。今も東部で区画整理事業が進められています。東南海地震も心配されるなか、編集テーマ「絆」と「交流」がますます大切になってきます。そして「共助」がスムーズにできるよう、みなさんとともに今後も活動していきます。

〔作成委員会〕 鳥居正巳 / 吉岡啓 / 川田順三 / 林陽司 / 堤將就 / 椋木茂 / 山本恵一 / 澤田憲正

〔参考資料〕 緑丘十年 / 1995緑丘この10年 / 緑丘 創立30年 / 本宗寺 / ふるさとの風 / 新編 岡崎市史 / 六斗目川の浄化活動

〔表紙写真〕 アジサイの咲く頃、地域で団結して行われる六斗目川美化活動 〔協力〕 緑丘小学校



昭和52年の航空写真。区画整理中、一部地域で入居が始まっていた



平成26年の航空写真。区画整理後、多くの住宅が立ち並んでいる



緑丘小学校開校。子どもたちの喜びの声が聞こえてきそうな一場面



竜南中学校開校。曲線を取り入れたモダンな造りの校舎が目玉された



こどもの家の開所。下校後の児童が安全に過ごせるようになった



現在は学区で行う六斗目川の美化活動も当初は小学校のみで始められた



当時の生徒が1人1枚ずつ描いた壁画。景色に潤いを与えている



児童見守り隊。ボランティアによるふれあいパトロール委員会が運営

小学校誕生とともに歩んだ 緑丘学区のなりたち

一八七八年 ■ 明治11

馬頭村、生田村、平地村が合併し、和合村となる

一八九〇年 ■ 明治23

和合村、岡村、保母村が合併し、美合村となる

一九〇八年 ■ 明治41

美合尋常小学校創立

一九一〇年 ■ 明治43

国立愛知種馬所開所

一九二六年 ■ 大正15

愛知電気鉄道（現名古屋鉄道の前身のひとつ）が美合駅開業

一九二八年 ■ 昭和3

美合村が岡崎市に合併する

一九三三年 ■ 昭和8

日清レイヨン（日清紡美合工場の前身）創業

一九四三年 ■ 昭和18

中川ヒューム管工業創業

一九五一年 ■ 昭和26

愛知県岡崎職業訓練所（昭和63年、県立岡崎高等技術専門学校と改称）開所

一九七一年 ■ 昭和46

平地東に市営住宅250戸が建設される

一九七三年 ■ 昭和48

岡崎馬頭土地区画整理組合が認可される

一九七五年 ■ 昭和50

緑丘小学校開校とともに緑丘学区誕生。小学校南校舎完工…1

一九七六年 ■ 昭和51

緑丘小学校北校舎完工

一九七七年 ■ 昭和52

火の穴古墳を緑丘小学校へ移築。小学校プール完工

一九七九年 ■ 昭和54

緑丘小学校体育館完工

一九八三年 ■ 昭和58

県道岡崎刈谷線開通

一九八四年 ■ 昭和59

小豆坂小学校開校に伴い、学区の一部が小豆坂学区へ編入

一九八五年 ■ 昭和60

竜南中学校開校…2

一九八六年 ■ 昭和61

緑丘学区市民ホーム完工

一九八七年 ■ 昭和62

日清紡美合工場が繊維加工部門とメカトロニクス部門に分離独立

一九八七年 ■ 昭和62

岡崎緑丘土地区画整理組合解散

一九八九年 ■ 平成1

高年者センター岡崎開所

一九九一年 ■ 平成3

緑丘学区こどもの家開所…3

一九九四年 ■ 平成6

愛知県青年の家開所

一九九七年 ■ 平成9

緑丘小学校にて六斗目川河川美化活動開始…4

二〇〇〇年 ■ 平成12

六斗目川沿いに緑丘小学生による壁画完成…5

二〇〇一年 ■ 平成13

緑丘学区児童育成センター開所

二〇〇二年 ■ 平成14

緑丘学区福祉委員会発足

二〇〇八年 ■ 平成20

平成20年8月末豪雨により緑丘二区の一部が浸水被害

二〇〇九年 ■ 平成21

緑丘学区ふれあいパトロール委員会発足…6

二〇一四年 ■ 平成26

県立みあい養護学校（平成26年、県立みあい特別支援学校と改称）開校

二〇一五年 ■ 平成27

日清紡の繊維加工部門は徳島と海外へ移転、メカトロニクス部門は継続

二〇一五年 ■ 平成27

緑丘小学校が創立40周年を迎える

DATA



人口	10,628人
男性	5,394人
女性	5,234人
世帯数	4,379世帯
面積	3.12km ²
[2016年7月1日現在]	

学区の特色

私たちの学区は美合小学校の児童数増加に伴い、昭和50年4月1日、岡崎市第35番目の学区として発足しました。

北に乙川を望み、南に京ヶ峰に続く山々、中央に六斗目川を有する自然豊かな地区です。

昭和40年代から土地区画整理事業が行われ、この地区の名称が緑丘一〜三丁目と改称されるなど、一大住宅地となりました。さらに大型マンション建設や菟川町の一部も加わり、町内会も7町内から13町内と増えています。新しい学区ゆえに、旧住民と新住民とが協力し合って融合を図っています。

また本学区を語る上で欠かせない施設が二つあります。一つは日清紡美合工場、もう一つは県立農業大学校です。この2施設は学区内において広大な土地を保有しているのですが、その存在感を示すのは広い敷地面積だけではありません。日清紡は地域と連携したイベントの企画や、同社員が他地域から転入することで地域を盛り立てて来ています。また

た県立農業大学校は全国区の農業教育施設であり、全国から学生が集まることで、地域に新しい風を吹き込んで来ています。

これからも学区住民はもちろん、この地域で働く人、訪れてくれる人が笑顔でいられるよう、地域を挙げてさまざまな活動を行っていきます。

COLUMN 地域発展の一翼を担った 日清紡

昭和8年、日清紡績の大規模工場として日清レイヨンを設立。戦後、繊維加工工場として再建し、その後、種々変遷し、昭和61年から平成26年までは美合事業所（繊維加工部門）と美合工業事業所（工作機械・プラスチック製品部門）がありました。平成26年の繊維加工部門転出後、今も工作機械・プラスチック製品部門は稼働を続けています。工場操業は人口流入やインフラ整備など、地域発展の要因になりました。また学区や学校の諸行事に積極的に参加し、地域の活性化に貢献しています。

敷地内のグラウンドの桜並木は岡崎市の桜の名所のひとつであり、満開の桜が楽しめる地域の憩いの場となっています。

緑丘学区

まちなものがたりマップ

小学校区の歴史は約40年と比較的新しいながらも、地域の起源は古く古墳時代とされる緑丘学区。火の穴古墳や徳川家ゆかりの本宗寺もあり、その長い歴史を感じることが出来ます。また、愛知県立岡崎高等技術専門学校、愛知県立みあい特別支援学校、愛知県青年の家、高年者センター岡崎といった多くの公共施設も擁し、緑道や公園も備えた住みよい住宅地として知られています。



H 本宗寺



◁五本線が見られる本宗寺の外観

浄土真宗本願寺派門主・蓮如上人が創建した古刹。徳川家康に対する三河一向一揆で破壊された後、家康の母、於大の方の姉妹である芳春院妙西尼の懇願により再興を許されました。境内には芳春院の墓と、家康の家臣であった石川数正の墓があります。

- ◎1468年(応仁2) 蓮如上人により額田郡土呂(現岡崎市福岡町)に創建
- ◎1559年(永禄2) 朝廷から勅許院家の栄誉を賜る
- ◎1563年(永禄6) 三河一向一揆勃発。徳川家康の命により取り潰される
- ◎1583年(天正11) 芳春院妙西尼の懇願により、再興を許される
- ◎1611年(慶長6) 美合町平地に本宗寺が完成

本宗寺のコレ知ってた? Q & A

- Q 本宗寺の塀にある五本線の意味は?
- A 朝廷より勅許院家の栄誉を賜った証。白い横筋を「定規筋」といい、線の数に寺院の格式を表しており、五本線が最高とされています。
- Q “本宗寺の大松”って、どんな木?
- A 推定樹齢は約400年。樹高13m、枝張り23m。地を這うような姿をした岡崎市指定名木の大松です。
- Q 広大な所有地を持っていたって本当?
- A 美合町へ移転時に幕府より75町歩を受けたとされています。明治維新後に寺領は国有地化。その後現在の県立農業大学の敷地となっています。



E 馬頭緑道 総延長約500m。住宅街の中を走る緑の遊歩道。季節の花を眺めながら、みなさんものんびり、ゆ〜っくり歩いてみませんか?



F 日清紡グラウンドの桜 桜の名所として知られる日清紡の桜並木。毎年春になると多くの人々が訪れ、散歩や宴会などを思い思いに楽しんでいる



E 馬頭緑道



G 馬頭神明宮 社殿は平成12年に竣工された

この地域には古くから人が住み、村として成り立っていたそうです。その村の守り神として伊勢神宮から天照大神を祭神として小さなお堂にお迎えし、神明宮と呼びました。今は立派な社に鎮座し、馬頭のお宮さんと呼ばれて親しまれています。



B 緑丘小学校(上)

C 火の穴古墳(左) 火の穴古墳は、区画整理事業によって発掘された古墳で、6世紀のものと考えられる。緑丘小学校に移築後、児童の歴史学習に役立っている



A 愛知県立農業大学校

農業従事者を教育育成する学校。昭和21年に天皇がご休憩された追進館もあり、NHK朝の連続ドラマ「純情きらり」のロケ地にもなった



D 馬頭観音寺 以前の村名の由来となった観音様。1627年(寛永4)、春日大明神の化身が乱世を救うために残した馬頭観世音菩薩の霊像が由来とされる

人と自然がふれあい、笑顔があふれる 緑丘学区の絆と交流

六斗目川での活動が 人と人とを繋いでいく



学区を挙げての本活動の様子

地域の絆を紡いでくれる
学区全体での取組み

かつては夏になると子どもたちが水遊びに興じるほどの清流だった六斗目川。しかし時代の流れから汚染が進み、誰からも見向きもされない川となっていました。そこで立ち上がったのが子どもたちでした。

「魚のすめる六斗目川にしよう」をスローガンに、平成9年から河川浄化の取り組みを始めたのです。その姿を見た大人たちも共感し、学区民を挙げて活動を支援するようになりました。現在では児童、PTAを含む住民約600人が一堂に会する活動となりました。



六斗目川とは…

美合町川向地区から乙川合流点までの延長0.47kmの河川。江戸時代に本宗寺の領土もあつた緑丘。平均した年貢の石高が六斗であったことから、六斗が土地や川の名前の由来となつたとされています。

六斗目川が美しくなつたことはもちろん、世代や立場の異なる住民が協力し合えたことは、喜ばしい出来事でした。最近では防災訓練も同時に行うなど、地域を守る意識も今まで以上に高まっています。こうして六斗目川は学区民を繋ぐ大切な川となりました。



大人数での作業は協力が大切

きれいな川のために

清掃&美化活動
毎年、新緑の頃に2回に分けて活動が行われます。

第1回目(事前活動)

本活動に向けて刈払機なども使つて行う事前準備。全員で安全に作業ができるようにと、学区のみなさんが黙々と作業をしています。

第2回目(本活動)

子どもたちは主に草やゴミを集めて運び、大人たちはその運び出しや掃き掃除を行い、一致団結してきれいに片づけていきます。



水辺には色鮮やかなカワセミの姿も

馬頭緑道を訪れる人々がふれあう

散歩に、花に、イベントに、
地域住民が集う場所

「地域のシンボルに、そして住民のふれあいの場にしたい」との住民の要望から生まれた緑道。

日頃は健康づくりの散歩をする人や、ベンチでくつろぐ人がいるなど、地域の憩いの場となっています。爽やかな緑の季節はもちろん、梅、モクレン、菜の花、藤、桜なども見られ、花を愛でながらの散策を楽しむこともできます。

また、ここでは町内の親睦と清掃活動などの慰労を兼ねた地域交流会



馬頭緑道とは…

馬頭観音伝説に因んだ名称を冠し、緑丘土地区画整理事業(昭和48~61年)の完成を記念して造られた緑道。

が年2回開催されています。「ピング大会」や「餅つき&焼き芋」が恒例で、子どもも大人も和気あいあいと楽しむ姿が見られます。住民からは「友達や知り合いが増える」、「緑丘に住んで良かった」などの声も聞かれ、交流の場としても喜ばれています。

地元の声

当初は幅11mのオープン排水路の計画でしたが、区画整理組合に私たちの要望を聞き入れてもらって誕生した緑道です。月1回、ゴミ拾い、草取り、小枝伐採をするほか、菜の花やチューリップの植栽もしています。

△「お母さん、重いね」、「3人でやれば大丈夫」…と、楽しい会話が聞こえてきそうなお餅つき



▷月1回の清掃活動の様子。女性も大活躍

緑丘小学校元校長 松井幸彦さんのお話

私が赴任した当時、六斗目川は悪臭漂う汚い川でした。学校でボランティアを募って緑化委員会を設置し、清掃、魚の放流、ブナの植栽、EM活性液投入などの活動を始めました。すぐに効果は表れませんでした。約3か月後に水が澄み、水草や魚も増えたのです。その川を見た子どもや地域の方の笑顔が今も忘れられません。

愛知県立農業大学校で農業と親しむ

担い手との会話も楽しい
毎週の實習販売

農業後継者及び農業の担い手を教育して養成する農業者研修教育施設。特に農学科は花き、作物果樹、野菜、畜産など、農業全般にわたる教育体制が整っており、全国から人材が集結しています。

ここでは毎週水曜日に消費者の声を直接聞くことを目的とした農畜産物の實習販売が行われています。採れたての野菜、切り花、卵、果物、米などを買い求める客で賑わい、地元をはじ



愛知県立農業大学校とは…

国の愛知種馬所として設立後、追進農場、追進営農大学校、県立農業大学校と変遷を遂げ、現在に至る。

め近隣からも人が訪れる交流の場となっています。また12月の農大祭や、一般向けの校内見学「サマーキャンパス(農大キャンパスツアー)」なども企画。農業を身近に感じられる情報発信が、多くの人に親しまれています。

地元の声

毎週開催の實習販売は、生産者さんから直接野菜が買える機会なので、ありがたいです。また農業を志す学生さんと野菜の作り方やその味について会話することも楽しみのひとつ。食の大切さも実感できますよ。



△花や野菜が並ぶ實習販売。開催日は周辺の道路が混雑するほど賑わう



▷歴史と風格の漂う追進館は、追進農場当時の建物